

学校DX戦略コーディネータ概論【III】

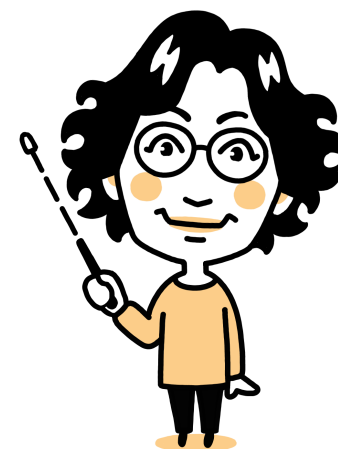
第6講

内容の選定と組織化

国立大学法人東海国立大学機構

岐阜大学教育学部

今井 亜湖



第6講 内容の選定と組織化

◆概要：教育プログラムやカリキュラムを開発する過程の1つである「内容の選定と組織化」を行うために必要な知識を解説する。

- ADDIEモデル
- ニーズ分析
- 学習成果の種類
- 課題分析
- 課題分析図

第6講 内容の選定と組織化

◆学習到達目標

- 特定の学習者グループに対してニーズ分析を行い、その結果に基づいて学習目標を設定することができる。
- 選定した学習目標がどのような学習成果を含んでいるかを分析し、その学習成果に適した課題分析を行うことができる。
- 課題分析の結果をもとに、教えるべき内容の関連性やその進行順序を明示することができる。

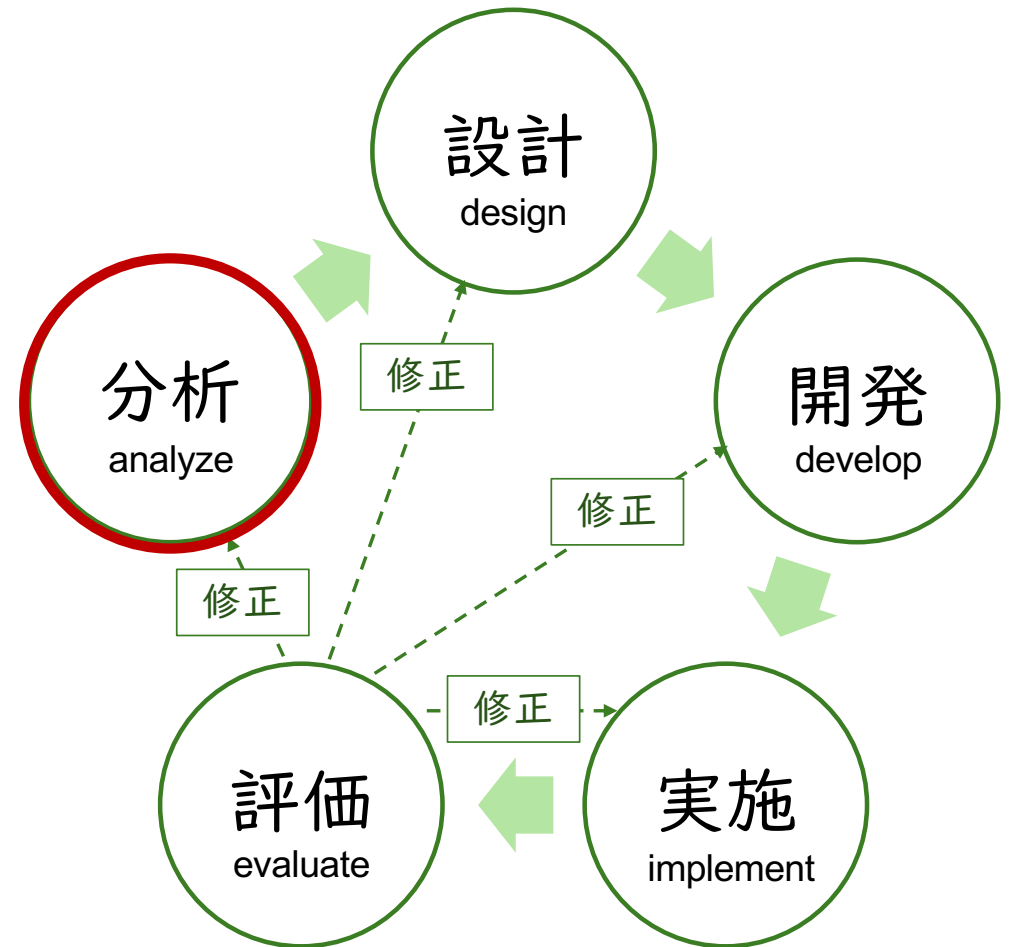
第6講 内容の選定と組織化

◆アウトライン

1. ADDIEモデルの分析段階
2. 学習成果の種類
3. 課題分析の方法
4. 課題分析図をもとにした組織化

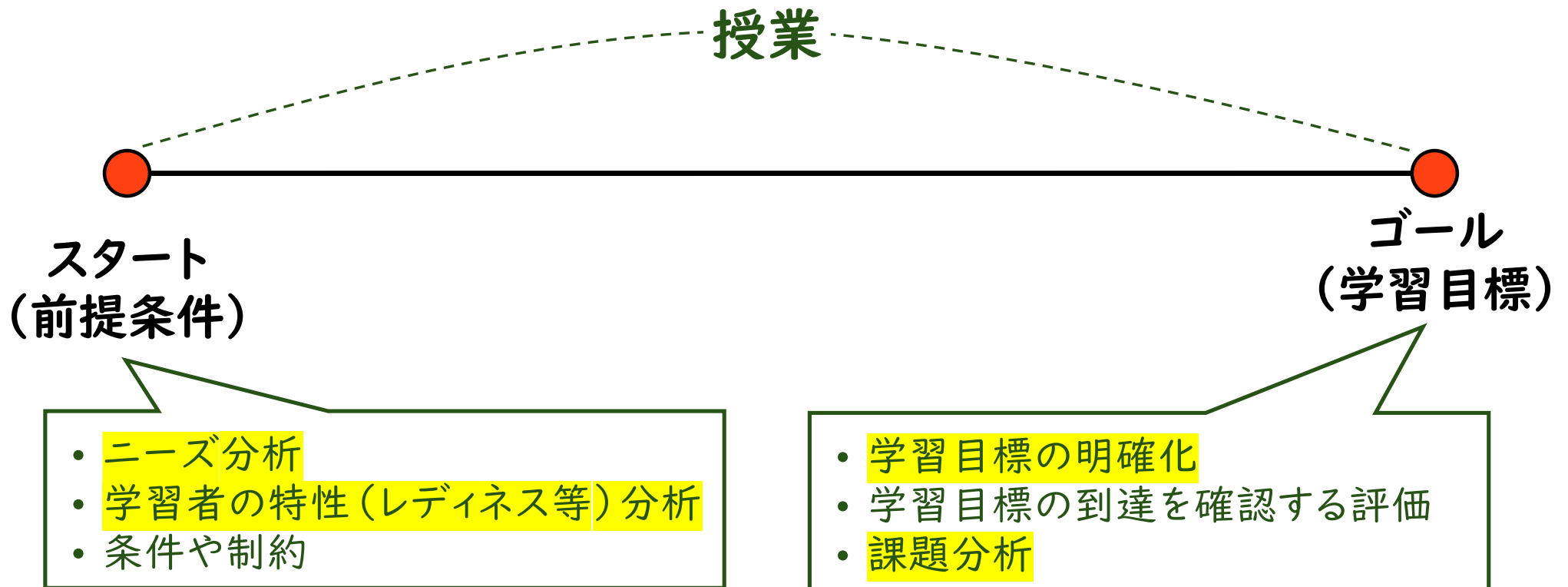
ADDIEモデル

- インストラクショナルデザインの基本的な設計モデル
- 分析から評価に至る設計プロセスの流れを示し、破線はフィードバックの流れを示す



分析段階

入口と出口を明確にする



学習者について把握しておくべき項目

項 目	内 容
1. 前提条件	授業において学習目標を達成するために、学習者があらかじめ身につけておくべきことを満たしているか。
2. 関連知識	学習者がこれから学習する内容や関連する内容について、どの程度知っている（経験している）のか。
3. 学習意欲	授業に対する学習者の学習意欲はどの程度か。興味はあるか、やりがいはあるか、自信をもって取り組めるかなど。
4. 学業レベル	学習者の他の教科を含めた成績の程度や、学校全体やクラス内の学習者の一般的な知識レベルなど。
5. 学習方法の好み	一斉授業・グループ学習などの好み、利用するメディアの好み、これまでにどの方法が成功したのかなど。
6. クラスの特徴	クラスの全体的な特徴（雰囲気や、他のクラスと特に異なる点など）。個々の学習進度のばらつき度合いなど。

使用部位	ガニエの学習成果の5分類
アタマ	言語情報：物事・名称を記憶する
	知的技能：ルールを理解し活用する
	認知的方略：学び方を工夫する
カラダ	運動技能：体を動かして身につける
ココロ	態度：気持ちを方向づける

言語情報

課題の性質	指定されたものを覚える (名前, 公式, 文章<暗唱, 要約>)
課題の例	県庁所在地, 憲法の前文, 九九, 英単語
目標行動を表す言葉	述べる, 言う, 説明する, あげる
評価の観点	再認か, 再生か? 再認(○×, 多肢選択, 線で結ぶ), 再生(自由解答)

知的技能

課題の性質	ある約束ごとを未知の（新しい）例に応用する （概念／ルール学習）
課題の例	2桁の足し算，学習課題の分類，書き換え問題
目標行動を表す言葉	応用する，適用する，分類する，区別する，解く
評価の観点	未知の例に適用させる（再生が基本） 再認（つまりきに応じた選択肢），場合分け

認知的方略

課題の性質	学び方や考え方を意識して工夫・改善する
課題の例	効果的な学びの進め方，課題研究
目標行動を表す言葉	採用する
評価の観点	問題状況に対して，どのような方略を採用するかを説明させる，ポートフォリオ

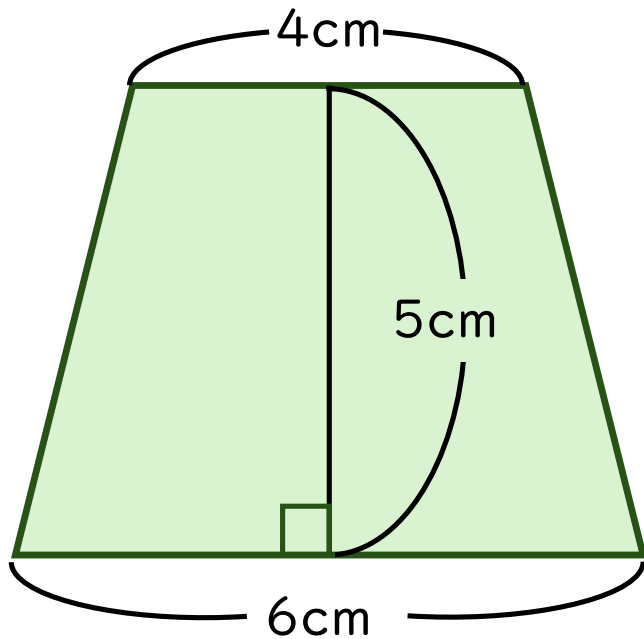
運動技能

課題の性質	筋肉を使って体の一部を動かす／コントロールする
課題の例	自動車の運転，パソコンのタッチタイピング， 目玉焼きを作る
目標行動を表す言葉	行う，実演する
評価の観点	実演が基本（「知っている」と「できる」は違う）， チェックリストの活用，正確さ・速さ・スムーズさ

態度

課題の性質	個人的な選択の機会があったときにある事柄を選ぼう／避けようとする気持ち
課題の例	<ul style="list-style-type: none">・ 環境にやさしい生活の習慣・ 引き続き学習しようと思うこと
目標行動を表す言葉	選ぶ，自発的に××する，拒否する，他の活動を選ぶ
評価の観点	行動観察か，行動意図の表明か？ 観察(チェックリストの活用，場の設定) 意図(行動のシミュレーション)

「台形の面積」の学習



① 公식을覚えている
「(上底 + 下底) × 高さ」 ÷ 2

② 台形の面積を計算できる
 $((4+6) \times 5) \div 2 = 25[\text{cm}^2]$

課題分析

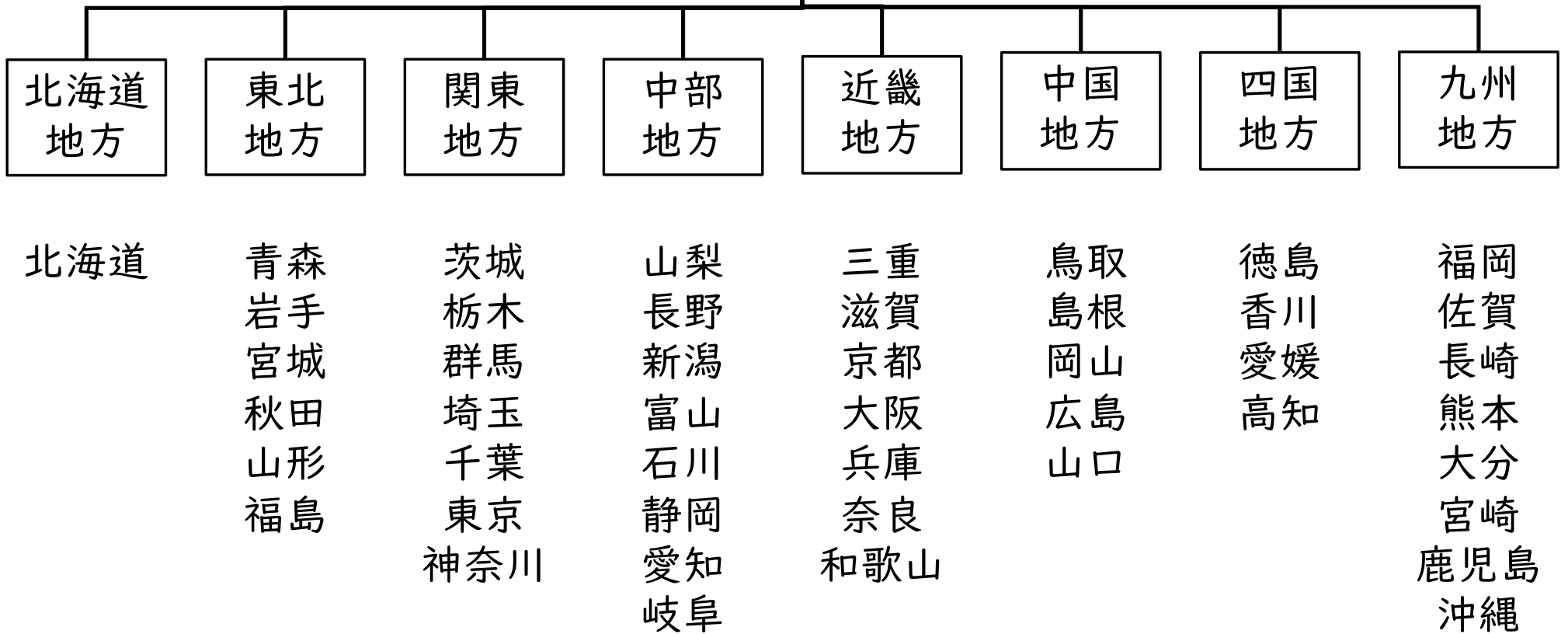
- 学習目標（授業や教材のゴール）に到達するために必要な要素とその関係を明らかにする方法
- 課題分析図と呼ばれる学習内容の関係を表した図を作成し、授業で「何を」「どこまで」教えるのかを明らかにする

課題分析の種類①：クラスター分析

言語情報の課題分析

- ① 覚えなければならない項目をすべて洗い出す
- ② ①で洗い出した項目の関係性に着目してグループに分ける

47都道府県を言える

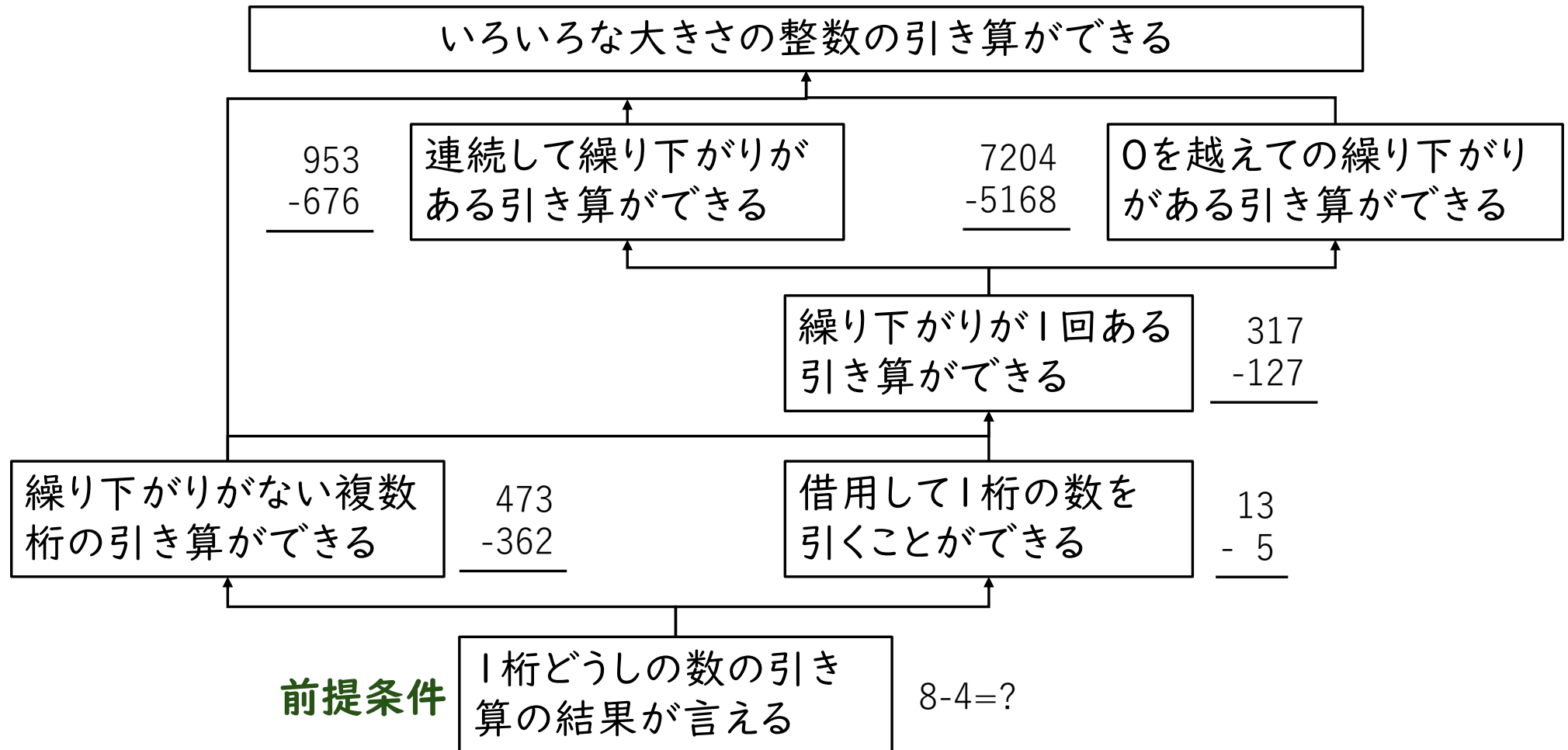


課題分析の種類②：階層分析

知的技能・認知的方略の課題分析

- 上位目標を達成するための前提条件として何を学んでいる必要があるか（下位目標）を分析する
- 線でつながった目標どうしは、下の目標が上の目標の前提条件になっているため、下から上へ進める。
- どのような課題があるのかを構造的に明示できる

階層分析の例：「引き算」(鈴木 2002)

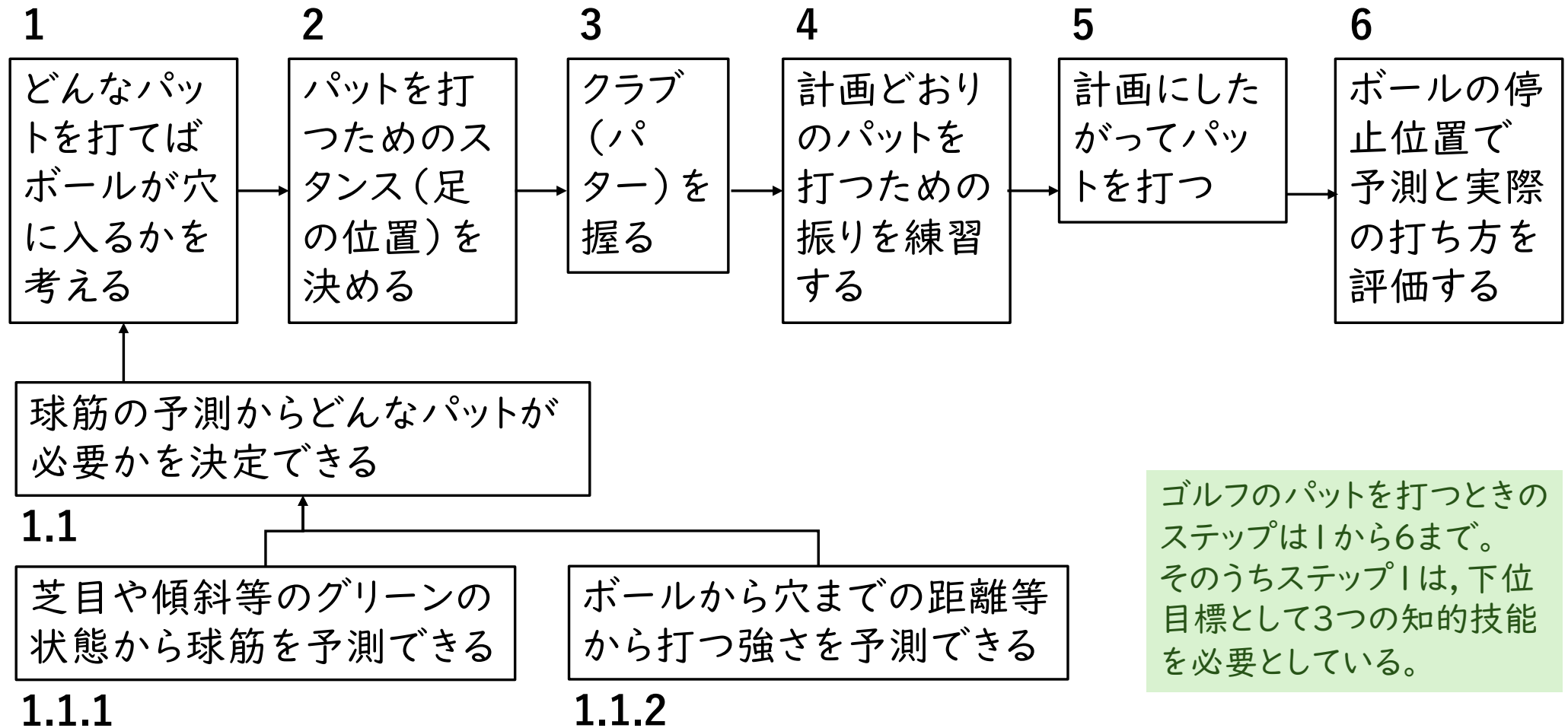


課題分析の種類③：手順分析

運動技能の課題分析

- 運動を伴う課題をどのような手順で実行していくかを分析する
- 手順分析図は、①何をするかをステップごとに1つずつ、左から右に上げていく、②各ステップを行うために必要な知識や技能は下にぶら下げて書く。

手順分析の例:「ゴルフのパットを打つ」(鈴木 2002)

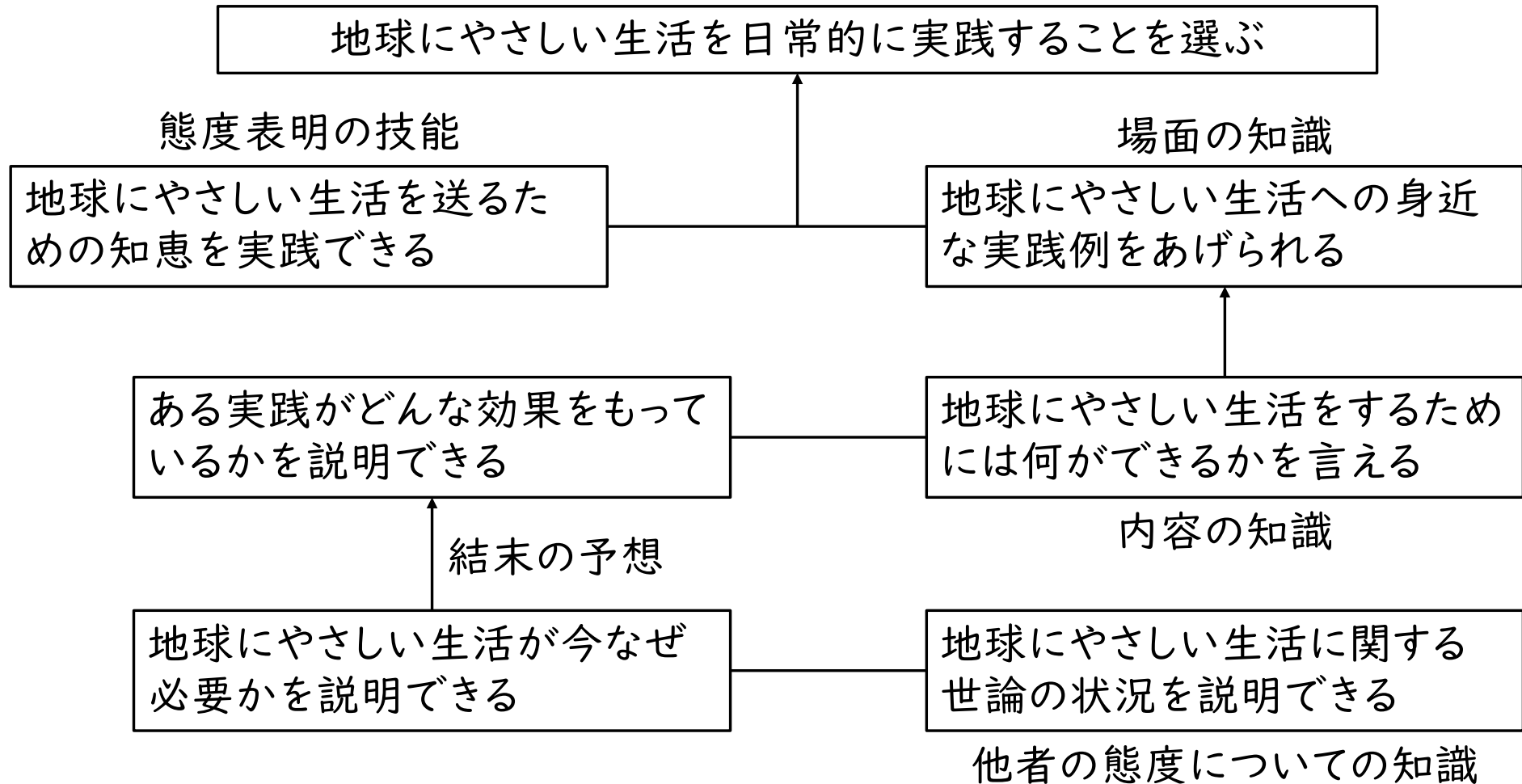


ゴルフのパットを打つときのステップは1から6まで。そのうちステップ1は、下位目標として3つの知的技能を必要としている。

課題分析の種類④：複合型分析

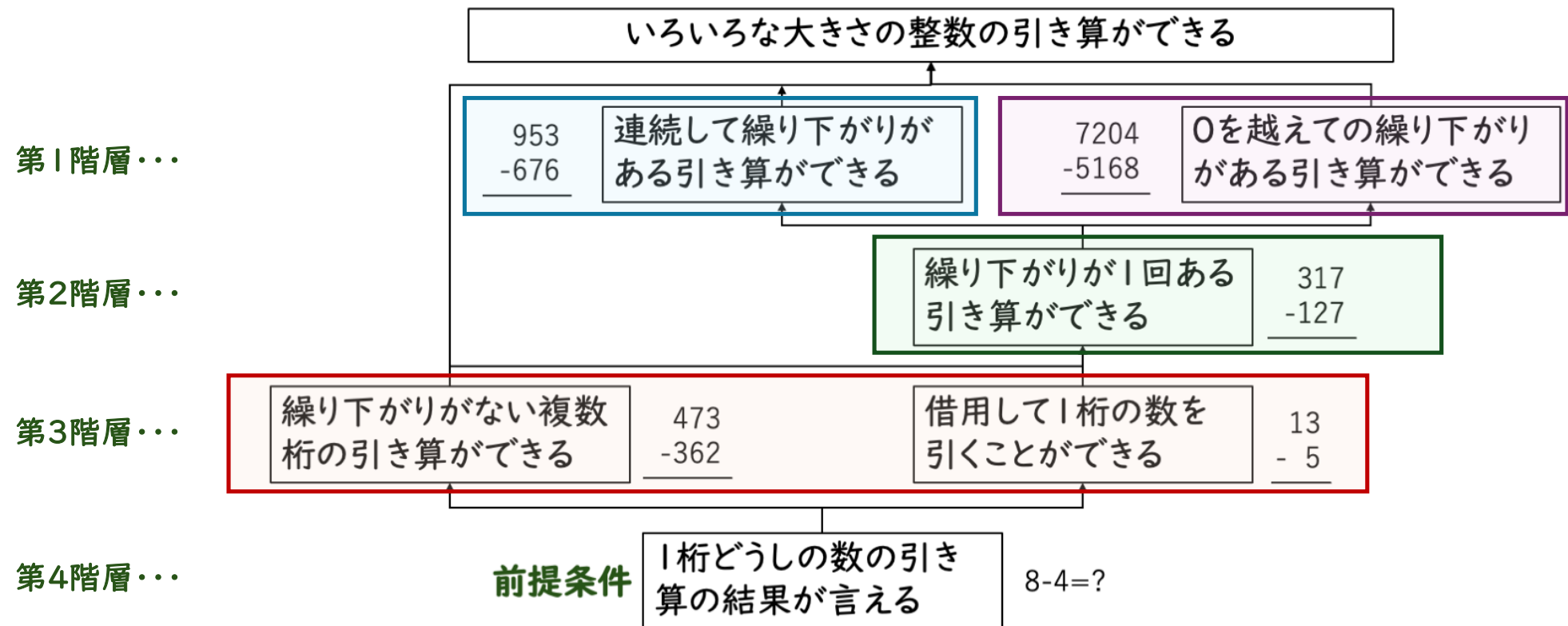
- 態度の学習では, 人の気持ちや態度の変容を促す。そのためには, その前提となる「あたま」の知識の獲得が重要になる。
- 態度に関する課題分析では, 態度変容を迫ることにつながる関連知識やスキルを洗い出すための複合型分析が用いられる。

態度学習の分析例：「地球にやさしい生活」(鈴木 2002)



組織化

階層分析の例:「引き算」(鈴木 2002)



まとめ

- 本講では，教育プログラムやカリキュラムの開発におけるプロセスの1つである「内容の選定と組織化」について概観した。
- 内容の選定では，学習目標がどの学習成果に属するかを同定し，その学習成果に適した課題分析を通して教えるべき内容を特定する方法を説明した。
- 組織化では，学習者の特性をふまえながら課題分析の結果から教えるべき内容のデザインの方法を説明した。

参考文献

- 稲垣忠(編著)(2022)教育の方法と技術 Ver.2：IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び. 北大路書房
- 鈴木克明(2002)教材設計マニュアル：独学を支援するために. 北大路書房
- 鈴木克明(監修)市川尚・根本淳子(2016) インストラクショナルデザインの道具箱101. 北大路書房
- R.M. ガニエ, W.W. ウェイジャー, K.C. ゴラス, J.M. ケラー (著) 鈴木克明・岩崎信 (監訳) (2007) インストラクショナルデザインの原理. 北大路書房

第6講 内容の選定と組織化

